

社会福祉法人奈良県社会福祉事業団定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、奈良県と一体となって社会福祉事業の推進を図り、広く県民福祉の向上と増進に寄与することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第1種社会福祉事業

ア 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号。以下「障害者総合支援法」という。）に基づく障害者支援施設の管理及び経営（奈良県障害者総合支援センター自立訓練センター）

(2) 第2種社会福祉事業

ア 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業（奈良県障害者総合支援センター自立訓練センター、奈良県障害者総合支援センター社会就労センター、奈良県障害者総合支援センターわかくさ愛育園）

イ 児童福祉法（昭和22年法律第164号。）に基づく障害児通所支援事業（奈良県障害者総合支援センターわかくさ愛育園）

ウ 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業（奈良県障害者総合支援センター）

エ 障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業（奈良県障害者総合支援センター）

2 前項に掲げるほか次の事業を行う。

(1) 福祉住宅体験館、介護実習・普及センターの管理及び経営

(2) 奈良県営福祉パークの管理及び経営

(3) 国・県が実施する社会福祉事業の受託

(4) その他前項の目的を達成するために必要な事業

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人奈良県社会福祉事業団という。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉・医療サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、障害者及びこれに準ずる者を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を奈良県磯城郡田原本町に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上10名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。

3 評議員選任・解任委員の選任及び解任は、理事会が行う。

4 評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

5 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。

6 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

7 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ、外部委員が賛成することを要する。

(評議員の資格)

第7条 社会福祉法（昭和26年法律第45号。以下「法」という。）第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者（租税特別措置法施行令第25条の17第6項第1号に規定するものをいう。以下同じ。）の合計数が、評議員総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

(評議員の任期)

第8条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第9条 評議員は、無報酬とする。

2 評議員には、評議員会において別に定める規程に従い、その職務を行うために要する費用を弁償することができる。

第3章 評議員会

(構成)

第10条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第11条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分

- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項
(開催)

第12条 評議員会は、定時評議員会として毎年度終了後3ヶ月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第13条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

第14条 評議員会の議長は、出席評議員の互選により選出する。

(決議)

第15条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第17条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第16条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名は、前項の議事録に記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第17条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名以上9名以内
- (2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長とする。

3 理事長以外の理事のうち、1名を副理事長、1名を常務理事とする。

4 前項の副理事長及び常務理事をもって法第45条の16第2項第2号の業務執行理事と

する。

(役員を選任)

第18条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(役員資格)

第19条 法第44条第6項を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

2 法第44条第7項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事及び評議員並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

(理事の職務及び権限)

第20条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長が欠けたとき又は理事長に事故あるときは、その職務を代行する。

4 常務理事は、理事長及び副理事長を補佐して、この法人の常務を処理する。

5 理事長、副理事長及び常務理事は、毎会計年度に4ヶ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第21条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(顧問)

第22条 本事業団に顧問をおくことができる。

2 顧問は、理事長が委嘱する。

3 顧問は、重要な事項について理事長の諮問に応じ意見を述べるることができる。

(役員任期)

第23条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第17条に定める定数に足りなくなるときは、任期満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第24条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
 - (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。
- (役員報酬等)

第25条 理事及び監事は、無報酬とする。

- 2 理事及び監事には、評議員会において別に定める規程に従い、その職務を行うために要する費用を弁償することができる。

(職員)

第26条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
- 3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第27条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第28条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

第29条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、副理事長が理事会を招集する。

(議長)

第30条 理事会の議長は、出席理事の互選により選出する。

(決議)

第31条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員の書面、又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該事案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第32条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第33条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の2種とする。

- 2 基本財産は、次に掲げる財産をもって構成する。

現金 10,000,000円

3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに、基本財産とするため必要な手続きをとらなければならない。

(基本財産の処分)

第34条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、奈良県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、奈良県知事の承認を必要としない。

(1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

(2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該設備整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資にかかる担保に限る。）

(資産の管理)

第35条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(特別会計)

第36条 この法人は、特別会計を設けることができる。

(事業計画及び収支予算)

第37条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）

(5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第39条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第40条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規定により処理する。

(臨機の措置)

第41条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

第7章 解散及び合併

(解散)

第42条 この法人は、法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第43条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、奈良県に帰属する。

(合併)

第44条 この法人が他の社会福祉法人と合併しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、評議員会の決議を得、かつ、奈良県知事の認可を受けなければならない。

第8章 定款の変更

(定款の変更)

第45条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、奈良県知事の認可（法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を奈良県知事に届け出なければならない。

第9章 公告の方法その他

(公告の方法)

第46条 この法人の公告は、社会福祉法人奈良県社会福祉事業団の掲示場に掲示するとともに、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第47条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

1 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとし、その任期は第8条の規定にかかわらず昭和64年3月31日までとする。

理事長	上 田 繁 潔
副理事長	中 村 正
〃	増 原 健 二
常務理事	木 岡 源 次
理 事	有 山 雄 基
〃	榎 本 哲 夫
〃	河 村 善 次 郎
〃	嶋 津 昭
〃	丸 上 昌 男
理 事	渡 邊 文 次
監 事	南 出 七 男
〃	森 川 明

- 2 この法人の設立初年度の事業計画及び予算は、第14条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
- 3 この法人の設立初年度の会計年度は、第16条の規定にかかわらず、設立登記のあった日から昭和63年3月31日までとする。
- 4 この定款は、設立登記のあった日から施行する。

附 則

この定款は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この定款は、平成2年4月1日から施行する。(第4条変更)

附 則

この定款は、平成4年4月1日から施行する。(第6条及び第15条変更)

附 則

この定款は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この定款は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第4項変更)

附 則

この定款は、平成10年4月1日から施行する。(第5条、第15条、及び16条変更)

附 則

この定款は、平成11年4月1日から施行する。(第5条の次に新しい条文を加え、6条を7条とし、7条を8条とし、以下同様に23条までを1条繰り下げる)

附 則

この定款は、平成13年11月1日から施行する。(第1条を改め、第2条の次に新しい条文を加え、第3条を第4条とし、以下同様に第17条までを1条ずつ繰り下げ、第17条の2を改め、同条を第19条とし、第18条を第20条とし、第19条を改め、同条を第21条とし、第20条を第22条とし、第21条を第23条とし、第22条を改め、同条を第24条とし、第23条を第25条とし、第24条を第26条とする)

附 則

この定款は、平成15年4月1日から施行する。(第1条変更)

附 則

この定款は、平成18年4月1日から施行する。(第1条変更)

附 則

この定款は、平成18年10月1日から施行する。(第1条変更)

附 則

この定款は、平成22年4月1日から施行する。(第1条及び第24条変更)

附 則

この定款は、平成24年4月1日から施行する。(第1条変更)

附 則

この定款は、平成25年4月1日から施行する。(第1条変更)

附 則

この定款は、平成26年4月1日から施行する。(第1条及び第5条変更)

附 則

この定款は、平成29年4月1日から施行する。